

ふれあい つながり かわら版

フロから学ぶ創造力育成事業

変化が激しく、グローバル化が進む現代において、日本が国際社会で他国と協調しつつ、世界をリードする役割を果たすためには、卓越した創造力や発想力、確かな技術が大切になります。

「フロから学ぶ創造力育成事業」は、様々な分野で世界的に活躍する兵庫ゆかりのクリエイターを学校へ招聘し、中学生を対象に講話等を実施することで、これからの社会において、より豊かな感性を働かせ、新たなアイデアを生む力を身につける機会を支援する事業です(2年間で全ての中学校が実施)。

今回のかわら版では、10月18日(金)に実施した菅野中学校と、10月20日(日)に実施した豊富中学校の講演会を紹介します。



「パティシエがいてこのケーキだけではない、世の中の仕事は全て『モノ』と『サービス』」

菅野中学校は、三田にある「パティシエ エス コヤマ」の創業者である、小山進さんを招いて講演会を実施しました。小山さんは少年時代からケーキ職人を目指していたわけではなく、「昆虫博士」と呼ばれるほどの昆虫好きだったそうです。興味はロックンローラー、歯医者、映画監督、

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育推進係
(079)221-2120



ディレクター、陶芸家、グラフィックデザイナー等、様々な職種に変わり、「興味を持つことに対するクオリティーは昆虫以上でないと嫌」だったそうです。そんな小山さんがケーキ職人になろうと決めたのは、洋菓子職人である父の職場でアルバイトをした高校生時代のクリスマスでした。父親の働く姿に触れ、父と父の職業を自慢したいと思ったそうです。

「何かに対するテンションを高めることができるようになれば、何を仕事にしても大丈夫!」
「今大好きなこと、これから大好きになることを徹底的に深掘りすること!」
「なるべく自分で決める力をつけること。まずは自分で考える。自分ならこうすると考えよう!」

大好きなこと全てをつないでケーキをつくる小山さんの言葉に、勇気づけられる講演でした。



「好きなことを仕事にするために」

豊富中学校は、明石市出身の気象予報士、蓬萊大介さんを招いて講演会を実施しました。少年時代は外で遊ぶのが大好きで家のすぐそばにある海に行き、空を見ることが多かったそうです。ちなみに、小学校低学年の頃は、「生き物係」をつとめ、「昆虫博士」と呼ばれていたそうです。中学1年の頃

は、勉強が苦手な、机に向かうきつかけ作りとして始めたのが「人生の作戦ノート」でした。いつまでに・どれくらい・何をするのかを自分で決め、ノートを書く習慣を大学生になっても続けました。大学を卒業し、テレビの向こう側に憧れ、俳優を目指しましたが、5年経っても、なかなか上手く行かず、他のものを目指そうと考えたとき浮かんできたのが地元の青い空だったそうです。気象予報士の資格を目指し始めたのは25歳の時、ノートに作戦を立て、資格がとれたのは27歳でした。

「自分に向いているもの(続けていて楽しいこと)が見つかったら思いっきりハマること!」
「大人も悩みながら生きている。最初からこれだと道がわかっている人なんていない!」
「部活や勉強は社会に出る前の本気を出す練習!どうやってたら自分はうまくいくか成功パターンを見つけよう!」

夢が成長とともに変わり、自分に向いている場所を探し続けてきた蓬萊さんから、目標を立てて行動することの大切さを学んだ講演会でした。

「ふれあい姫路の未来を拓く子供達」

この事業は姫路市の小中一貫教育においても大切に行っているキャリア教育の一環として行われました。印象的だったのは、どちらの学校の生徒も、目をキラキラさせ真剣に講演を聴いていたことです。小山さんは、講演の冒頭に、「講演はコンサートの様なもの」と言っていました。聴衆である中学生が講演の雰囲気を作り良いものにしていました。この講演を聴いた生徒達がどのような未来を切り拓いていくのか期待が膨らむ講演会でした。